

## 認定心理士の会から

### 北海道支部会から活動のご紹介

今回は、認定心理士の会北海道支部会の活動についてご紹介したいと思います。

北海道支部会では、毎年、認定心理士向けのシンポジウムを実施しております。これは北海道心理学会の年次大会と合同で開催されるものです。シンポジウムのテーマとしては、あまり研究者寄りではなく、なるべく社会的にも関心のある内容について企画できるように心がけています。

初回となる一昨年（2017年）は、「子供を取り囲む環境—育まれる心、育む心—」というテーマで、子育てに関する様々な問題について幅広く話題提供を行いました。2回目となる去年（2018年）は、「発達障害と生きる社会—その機序と支援について—」というテーマで、近年社会的関心も高まっている発達障害について、基礎から臨床まで色々なトピックで話題

提供していただきました。そして今年度は、10月6日（日）に「社会関係を実証する心理学（仮）」というテーマで開催します。私たちの日常的な関心でもある社会関係について、二人の話題提供の先生から、二者間といったマイクロなものから、社会や集団といったマクロな関係までご紹介していただく予定です。開催地は、一昨年は帯広（主催校は帯広畜産大学）、去年は札幌（札幌国際大学）、今年は旭川（旭川医科大学）と、道内の各都市を巡回しています。

詳しい内容や参加登録方法は、認定心理士イベントのWebページ（<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokaievent/>）をご覧ください。認定心理士の方の参加費は無料です。北海道内のみならず、観光も兼ねて全国からぜひ皆さま多数のご参加をお待ちしております。

（認定心理士の会運営委員北海道支部会  
小川健二）

## 若手の会から

### 若手の多様なニーズ

若手の会幹事の佐藤徹男です。私は高校卒業後に渡米しカウンセリング心理学を勉強してきました。臨床では発達障害を持つ児童を中心に介入してきましたし、研究では文化を考慮した介入等を学んできました。恐れ多いですが、これからの日本の心理学と社会に少しでも貢献したいと思い、去年帰国しました。日本の大学には学生として一度も通ったことのない私が、日本で大学の教員をするという不思議なことをこの4月から始めています。学生の反応や大学のシステムも違う中、周りの先生方に助けられながら、なんとか前期を終えた次第です。臨床基盤や研究基盤もまだ整っていませんが、今後は日本の制度の中での発達支援の臨床研究をしたいと考えております。

私の加入をはじめ、若手の会幹事も徐々に世代交代がなされ、初期メンバーで残っている方1名も今年度で退任されることになりました。

発足当初は大学院生以上の若手を対象として企画を行ってきましたが、去年から学部生も対象にした企画も行なっております。若手の会のイベントを通して、「他の若手と共同研究がしたい」や、「若手の活躍できる新しい場を知りたい」、「他の若手と気軽に話したい」等、様々な声が聞こえてきています。

今社会に求められている、多様性と個別化の両方のニーズに応えるために、企画ごとの趣旨を再検討し、幅広い若手のための組織にしていこうと考えております。若手ができることの一つは、時代のニーズに合わせ、新しいことを考え、速やかに行動に移せることだと思っております。発足当時のメンバーやご指導してくださっている先生方の意思を受け継ぎつつ、「今」のニーズにあった若手の会を再考し、若手らしい会にしていけるように、活動していきたいと考えています。

（若手の会幹事 佐藤徹男）